

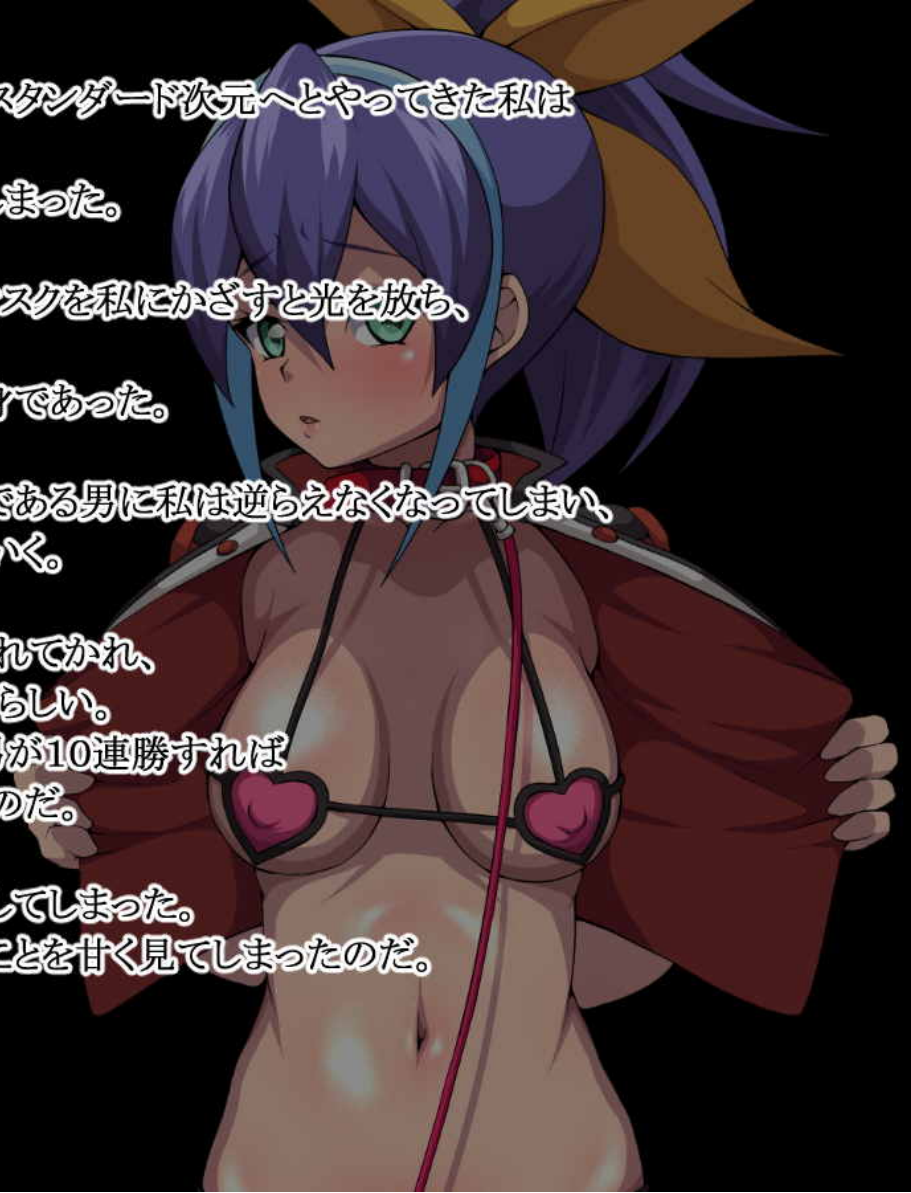
エクシーズの残党を狩る為に、スタンダード次元へとやってきた私は
とある男と戦った。
だがその男との戦いに敗れてしまった。

近づいてきた男はデュエルディスクを私にかざすと光を放ち、
一枚のカードが現れたのだ。
そこに描かれていたのは私自身であった。

私が描かれたカードの所有者である男に私は逆らえなくなってしまい、
男に従うまま車へと乗り込んでいく。

どうやら地下闘技場とやらに連れてかれ、
見せ物のデュエルをさせられるらしい。
守るかどうかは分からないが、男が10連勝すれば
私を解放すると約束してくれたのだ。

勝てば問題ないとわかり、安堵してしまった。
違法な地下デュエル……そのことを甘く見てしまったのだ。

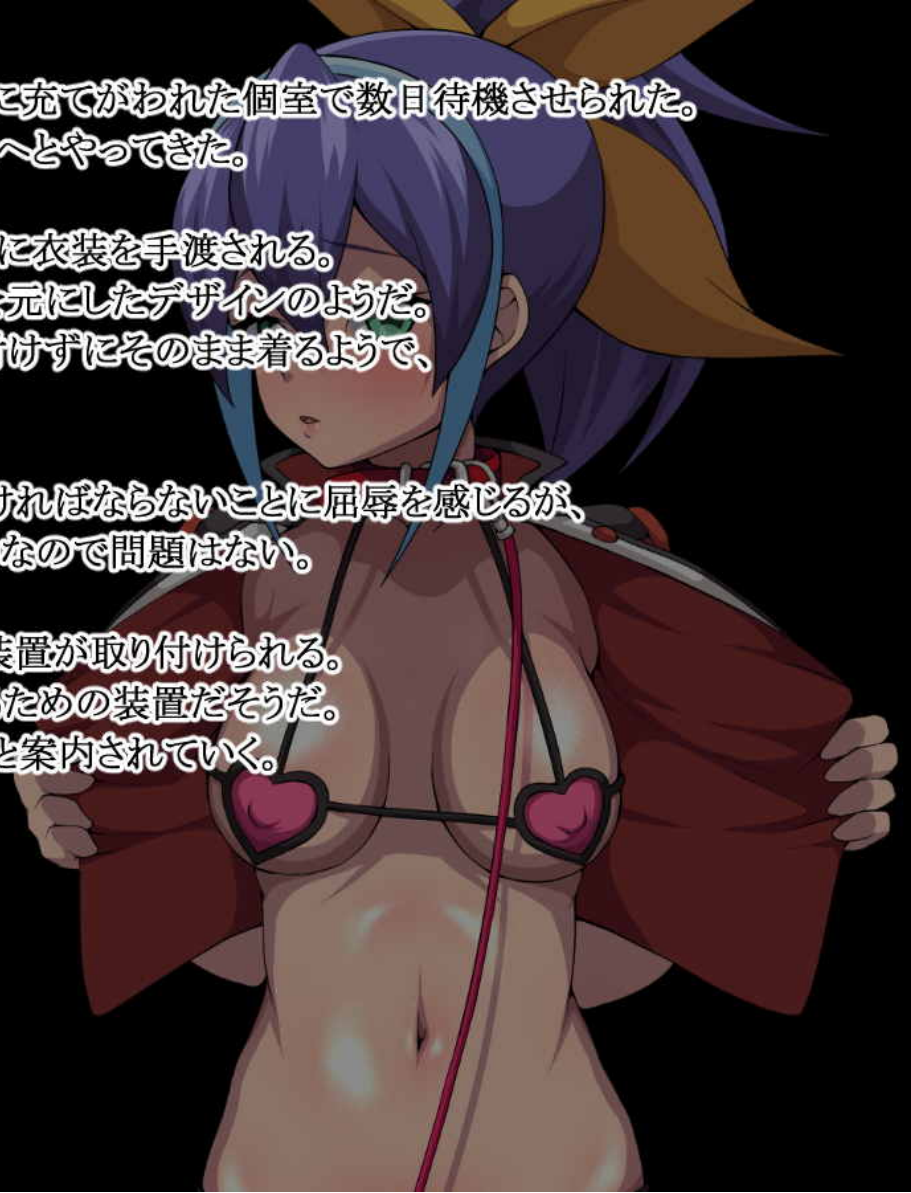


対戦が決まるまでのあいだ、私に充てがわれた個室で数日待機させられた。
対戦がついに決まり、男が部屋へとやってきた。

対戦のコスチュームだといひ男に衣装を手渡される。
どうやら私のモンスターカードを元にしたデザインのようなのだ。
かなり生地が薄く、下着などを付けずにそのまま着るようで、
体のラインが浮きでてしまう。

このような格好でデュエルしなければならぬことに屈辱を感じるが、
デュエル自体に影響はないようなので問題はない。

そして最後に首、腕、足に謎の装置が取り付けられる。
男いわく、デュエルを盛り上げるための装置だそうだ。
戦えばわかると言ひ、闘技場へと案内されていく。



鉄格子で囲われた
闘技場へと入場する。
周りにはカメラが設置され、
生中継されているのだ。

上階にはVIPルームがあり、
個室で金持ち達が観戦している。

対戦相手が入場してきた。
ガタイのいい大男で
金持ちに雇われたデユエリストだ。

どうやら、賭け以外で
私が負けた場合、
景品として私自身が
貸し出される仕組みになっている。



なんだ、ガキじゃねえか。
仕事だから容赦はしねえが
この試合中は楽しませてもらおうか。
下卑た笑みを浮かべながら挑発してくる。

御託はいい。

とつとつとデュエルを始めるぞ！

そして私の先行から

デュエルが開始された。

私のターンが終わり、
男のターンに移る。
この装置がなんだか、
まだ知らないんだろう？
体に付けられた装置を
指さしてくる。

デュエルが始まれば

わかると説明されただけで、

どのようなものはわかっていない。

だからどうした？
デュエルには関係あるまい。

くくっ……そうかな。
俺達は観客を楽しませ
なきゃいけないんだ。
いい声で泣いてくれよ。

そうして男は
マジックカードを使用したのだ。

使用したのはなんてことのない、
バーンカード。
500程度のダメージを
受けるだけのものである。

だが装置を通し電流が体に流れていく。
ぐっ……ああっ……！！

突然のことに体が崩れ落ち、
座り込んでしまう。

ははっ、どうだ自らが受けるダメージに
比例し装置が起動する仕組みよ。
500程度でへたり込んでちや、
戦いにならないぜ。

くっ……少し驚いたただけだ。
こんなもの、くるとわかっていれば
いくらでも耐えられる！

ほほお、そうかい。じゃあもう一枚追加しとくか。
そして再び電撃が体に流れ出す。

っっ！……ぐっ！！

電流自体の痛みはそれほどではない。

だが体が熱くなり、息が上がってしまう。
体に力が入らず、すぐに立ち上がることができない。



どうした？いくらでも
耐えられるんじゃないのか？

っ……いい気になるな。
たかが1000削っただけだ。
この程度痛くも痒くもない!!

そうかあ？
自分の体の異変に
気づいてないみたいだな。
500程度で濡れ始めるとは、
だいぶ感度がいいみたいだな。

ぬれる……？

男の指差す先、

自らの下腹部を見ると衣装がシミになり濡れているのだ。
生地が薄いため目立ち、肌が透けて見える。
自らの秘部がくつきりと浮き上がってしまう。

なつ…………

カメラで中継され、
金持ち共に見られていることを思い出し、
とっさに隠す仕草をとってしまっり。

おいおい、
おいおい、
そんなにデューエルできるのか？
なつをと立ってよ。

……………わかってる……！

なんとか立ち上がり戦う意思を見せる。
だが頭は混乱していた。



な、なぜ濡れているのだ。
電流が流れただけではないのか？
まさか、私は漏らしてしまったのでは？

いままでアカデミアで
幽閉されるように育てられて
きたため、性の知識に薄く。

セレナ自身、デュエル以外に興味を
示さなかったため、
自らの身体に起こった現象がわからずにいた。

。。。。。。

下腹部が熱く疼いてしまっ。

だが今はデュエルに集中しなければならない……
もともとアカデミアのデュエル戦士として
認めてもらう為にきたのだ。
デュエルに敗北し、自らが招いた失態……
これ以上負けることは許されない。

自らのミスは自分の力で
対処しなければならぬ！
とつとと10連勝し、ここをでなければ……
もしくは他の方法で
脱出しなければいけないのだ！

他の者の視線や、自らの身体の異変など放っておけばいい
いまはデュエルに集中し勝つことだけを考えるんだ。

そして男とのデュエルに勝利することが出来た。

だが自らの体に起きる異変に戸惑い、苦戦してしまった。
そして、徐々に蓄積されていく
快樂の波が大きくなっていくことに気づかないでいた。

っ……んぐっ……はあ、はあ

すでに9連勝中である。
そして、一気に5連戦のため消耗が激しかった。

5連勝まで、敵が弱かったこともあり、
難なく突破できた。
だが装置による電流には
対処しきれず戸惑うばかり、
そんな中5連戦の話が入ってきた。

これに勝ち抜けば一気に解放される。
電流も耐え切れるはずと
甘く見ていたこともあり
引き受けたのだ。

だが5連戦の相手は
今までと違いデュエリストの
レベルが違ったのだ。
どれも苦戦を強いられ、
ライフをギリギリまで削られていった。

どうした？へたり込んで？
まだ攻撃は終わってないぞ？
だが、どうしてもやめて欲しいなら
自ら懇願してみるよ。
そうしたら攻撃しないでやるからさ。

ぐっ……バ、バカにするなっ！！
私はデユエリストだ！！
ご、ごの……程度っ……

強情だな。
ならダイレクトアタックだ！

今まではライフを地味に
削られていただけであった。
初のダイレクトアタックである。
一気に2000のダメージが襲い掛かる。

一際つよう電流が体に流れ出す。

あああつ……ひつ!!
く……ん……!!

体が震え、ビクビクと小刻みに
痙攣します。

はひつ……な、なんで……
気持ちいいんだっ!!
んぐつ、耐えないとつ……!!

だが体は弛緩し、
股下からじわあくと
温かい感触が広がっていく。

ひうつ……み、みるなつ……!!

まるで漏らしてしまったかのように
股下から汁が溢れ出てくる。
カメラから反射的に
股下を隠してしまう。

頭がぼーっとし、
顔が赤くなっていくのがわかる。
体が痺れ、快感が体を満たしていく。

ははっ、みつともない
イツたんだろ？

モンスターの攻撃が気持ちよくて
イツちまいやがった!!

なつ……イク？

そうだよ気持ちよ過ぎて
絶頂を迎えたんだ。

負ければもっと

気持ちよくなれんだ。

とつとつサレンダーしちゃえよ。

くっ……き、気持よく……なんかっ……
誰が、サレンダーするものかっ！

気力を振り絞り立ち上がった。
負けるわけにはいかないのだ。

だが次のターンで目当ての
カードを引かないと負けて
しまう状況であった。

自分の意思とは関係なく
体が電撃を求め、攻撃を躊躇い、
プレイングミスも多々あったのだ

私のターン！

ふっ……

見事に目当てのカードを引き当て、
逆転することが出来た。

だが、体は満身創痍。

次に電流の大ダメージをくらえば、
体がどうなってしまうか分からない。



最後の対戦相手が入ってきた。
黒いフードを被り今までの相手とは
明らかに格が違うとひと目で分かる。

今までは私がシヨ一のメインであったため
装置は私しかつけていなかったのだが。
今回の相手は装置を装着していたのだ。

……

警戒し、頭がクリアになっていく。

男とのデュエルが始まった。
最初は私が有利であったが、
相手の融合召喚に寄り形成が逆転してしまう。
そして防戦一方となっていた。



守備を固めトラップでのマジックでの
除去を試みたが融合解除で封じられてしまう。

そして相手のターン。
さらに融合召喚を行い場に
モンスターが出される。

だが守備モンスターが複数体いる今、
負けることはないだろう。
次のターンが来れば逆転の一手が
見つかるかもしれない……

だが相手のモンスターは攻撃力が
8000になり守備モンスターを攻撃してくる。
貫通ダメージ持ちで、
一気にライフが削られ敗北してしまった。



がああああつ!!〜ぐうつ!!〜!!

8000の貫通ダメージ。

今までの比ではない電流が体を襲う。

おそらく出力は最大。

体は反り返り地面の上で悶え狂う。

あつ……あああああつ!!
な、なつ……ひう!!

自らの秘部を手で押さえつける。

溢れ出てきそうなものを

止めようと強く圧迫するが

自らを刺激し快感へと変わっていく。

体が跳ね上がると、

それにあわせ汗が吹き出していく。



あひっ、お、おかしくっ……なりゆっ

呂律が回らず無意識に
自ら股を手でこすり始めてしまう。
闘技場の真ん中で自ら
自慰行為にふけてしまう。

今まで我慢していた
反動か手は止まらず、
激しくなっていく

お、おかしい……
な、なんで気持ちいいんだっ……
くっ……負けてっ……しまったのに……
何も考えられなく……なっ……るっ……!



あつ……イ、イクつ……これ、イッちゃうつ……？
な、なにか……きちゃうつ……!!

一際大きく体が跳ね上がり、
地面にうなだれるように倒れこむ。
すでに対戦相手はおらず、
闘技場で観戦される中
絶頂を迎えたのだ。

はひい……
ぐっ……おおお……

闘技場の中心で一人余韻に打ち震え
うなだれている。
オナニー経験など無く、今まで味わった
ことのない快感になすすべなく
飲み込まれてしまっていた。

っ…………はぁ、はぁっ…………

敗北が重くのしかかる。
5連戦の疲れと絶頂の余韻、
敗北のショックがかさなり意識が遠ざかっていく

わた…………し、は…………負けてしまったのか…………
そこで意識が途切れてしまった。



見知らぬ小部屋で目が覚めた。
手は鎖で繋がれており、
足は届くか届かないかの
微妙な高さに吊るされていた。

衣装から悪趣味な水着に
変わっており、
気を失っている間に
着替えさせられたのだろう。

クソっ……デュエルに負けてしまったのか……
だが、なぜこんなことに……？

どうにか脱出しようと試みるが、
鎖は外れずどうしようもできない。
数分が経過するとドアが開き、
恰幅のいい大男が入ってきた。



セレナちゃん、やっと目が醒めたんだね。

浅黒い肌に、醜悪な笑みを携え近づいてくる。

なんだ貴様は？

こんなことをしてどうするつもりだ。

なにっつて？

僕が雇ったデュエリストが君に勝ったんだ。
戦利品として報酬に
君の処女を貰いに来たんだよ。

しよじよ………？

なんだそれは？



ぐふふっ、ほんとに知識がないんだね。
今日一日、君を自由に
できると思うと楽しみだよ。

背後にまわった男は
セレナの体をまさぐり始めた。

くっ……やめる!! 触るなっ……!!
自ら戦わない卑怯者が!!

暴れるが鎖で吊るされ、
足で地面が蹴れないため
力が入らず男に簡単にいなされてしまう。



暴れるだろうからって、
拘束して正解だったね。
僕はデュエルの腕はないけど、
金ならあるんだよ。

セレナの腋に顔をうずめ、匂いを嗅ぎ始めた。

すうすうっ、はぁ、最高だね。

デュエルの後だから
汗ばんで匂いが濃いよ。

……………!!
き、気持ちわるいつ!!
なんなんだ貴様はっ……………!!

男の異常な行動に戸惑い嫌悪する。



ひゃんっ!!
くっ……!!?

丁寧にじわうかのように、腋を舐め始める。
熱い舌が触れ、ザラザラと伝う感触に身悶える。

くすっ、くすくったい!
いますぐっ……やめっ……ひゅっ

男の手が胸へと伸びる。
適度な大きさの形の良い胸をわしづかむと、
男の欲望のまま揉みしだく。

はあ、はあ、やっぱセレナちゃんのおっぱいは、いい大きさだね。
揉みやすいよ。
ただ若いから少し硬いかな……
まあすぐに僕がほぐしてあげるからね。



ぐっ……やめっ……
痛いっ……!!

揉まれたことのない胸を、
力任せに掴まれたため痛みが襲う。

なんだよ？
気持ちいいんだらう？

じゃあ、乳首かな？
もう勃起してるんじゃない？

そう言ったら乳首をつまみ上げる。

両の指でつまみ上げ、擦り上げ引張り上げる。



ぐう……は、離せっ……
気持ちいいわけ、あるかっ……

引っ張られるほうへと体が傾き、
体が反り返る。

強情だなセレナちゃんは、初めてだから緊張してるの？
しようがないなあ……
調教も兼ねて、闘技者用の媚薬で気持ちよくしてあげるからね。

そっうい男は部屋から出て行った。

しばらくして戻ってくると手に、
液体の入ったボトルを携えてやってきた。



手袋をはめると、
手に液体を付着しセレナの体に塗布し始める。

ひゃっ……な、なんだそれは……冷たっ……

男の手から逃れるように
体を動かすがすぐに捕まってしまふ。

なにつて、媚薬だよ。
これを体に何回か分けて
塗って馴染ませていくんだ。
そうすれば、すぐ気持よくなれるからさ。



冷たく感じた液体は、
塗った部分から肌に染み込み
焼けるように熱く錯覚を起こす。

な、なんだこれは……
私の体に何が起こっているんだ……
何を塗られているんだ……

自分の体がおかしくなる
未知の恐怖が再び襲ってくる。
デユエル中の電撃と似た感覚が
体から沸き上がってくるのだ……

塗布された部分に
風があたると敏感に感じとってしまふ。
それがくすぐったくてもどかしい。

全身に塗り終わり、乾くまで放置される。
男はセレナの戸惑う姿を愉しそりに眺めていた。



数十分がすぎ再び
男が手に液体を塗布し塗り始める。

さあ、また塗ってあげるからね。

ひゃっ!!

男の手が体に触れた瞬間、
体が跳ね上がった。

ブルツと身震いしてしまふ。

な、なんだ。

さっきと全然違う……

どうしたのセレナちゃん？
ちゃんと塗らないと。

男が再び手をのばす。



やめ、やめる!! 触るなっ!!

必死で手から逃れようとするが
男の手が太ももをがっちりとりとらえた。
撫でるように再び液体を塗布していく。

ひゃっ、ああああああ!!

がくがくと腰が震えだしてしまう。

しゃ、しゃわるな.....ひうひう.....

容赦なく男の手が
体中に液体を馴染ませていく。
敏感な体を撫で回され、
呂律が回らず息が上がっていく。



はあはあ、ぐっ……………

何回目かの塗布が終わった。
どれほど時間が経ったのだろう……
入念な下準備に身体的にも
精神的にも疲弊しきっていた。

液体は完全に肌へと馴染み、
体はオイルをかけられた
かのように妖しく光を放つ。

男が部屋へと入ってきた。

どう？セレナちゃん？
もう僕セレナちゃんの
処女穴にぶち入れたくて
我慢できなくなっちゃったよ。

くっ……………ふざけるな……………

お前みたいな男、に好きにされて……………
たまるか……………



強がっちゃって、ほら

後ろにまわり
ケツをわしづかむ。

ひびき!!

体に男の手が触れると全身に
電流が走るかのように神経が
研ぎ澄まされていく。

あれれ?
もしかして軽くイッちやった?
もう水着越しにオマ○コ
ぐしよぐしよだもんね?

セレナちゃんの体臭と媚薬の
香りが混ざって興奮してきたよ。
水着越しでも乳首が
ピンピンに主張しちやってさ。



そう言うよ、

容赦なく乳首を指で摘みこすり始める。

ぐわんぐわん……やっ、あう……
んぐんぐん……

声を我慢しようとするが、
勝手に出てしまう。

男の手が触れる度に頭が痺れ、
思考が回らなくなっていく。

腰がガクガクと震えだし、
体がピンと張り詰めていく。

もしかしておっぱいで
イツちゃんじゃない？
ほら、やっぱ僕におっぱい
揉まれて感じてたんじゃないか。

男は形が変わるほどの
強さで胸を揉みしだしていく。
さっきは痛みしかなかったのだが、
媚薬の影響で気持よく感じてしまう。

ひゃっ……あつ、ああああ♡
おっ、き、きちやう……

腰がビクビクと痙攣しだし、
絶頂が近くなる。
必死に我慢しようとするが、
男の手は乳首を
重点的に攻め始めました。

ひゃっ……
先っぽに……そこを、触るなっ……
だっ……だめっ♡

我慢しないでイツちゃいなよ。
闘技場の時み
たいに素直になりなよ！
どうせ今日一目中僕に
イカされ続けるんだからさ！！



はっ、はっ、はっ……
おっ!!だめ……
い、イクツ……!!

強く乳首をひねる上げると
体はそれに合わせ大きく跳ね上がる。
ビクビクと小刻みに震え、
絶頂を迎えてしまった。
声を押し殺そうと歯を食いしぼるが
恍惚の表情を浮かべてしまう。

おお……ぐり……
き、気持ちいい……
な、なんで……こんな奴に……
我慢……しなければ……
私は……デユエリストなんだから……

わずかに残るプライドで
理性を保とうとする。
だがこれは前戯に過ぎず、
男は容赦なく次へと移る。



ひゃん!!


イツたばかりの敏感な体に
鞭打つように腰を掴み引き寄せる。
水着をずらすとすでに
秘部は洪水のように
グチヨグチヨに濡れており、
すぐに挿入できる状態であった。

み、みるなっ……

ムワツと湯気があがり
秘部からメスの香りがたちこめる。
自分のみっともない部分を
凝視され羞恥心を煽られる。

ぐふふっ、

処女マ○コなのに
ムレムレで美味しそうだ……



男は自らのチ○コを取り出す。
すでにパンパンに膨れ上がり
勃起している。

もともと肌が黒いせいかな、

男のチ○コはどす黒く禍々しさが際立つ。
長くはないが、太く亀頭が一際大きい。

視界に男のチ○コが映る。

初めてみる男のチ○コに

視線が釘付けになってしまう。

男のチ○コは強烈な匂いを放っていた。

離れていても匂いがわかる。

本来は臭くて顔をしかめるだろうが、

今はなぜかその匂いで体の奥が疼いてしまう……

な、なんだそれは……

そんなもの……

どうするつもりだ……

何って、僕のチ○コでセレナちゃんを女にしてあげるんだよ。

そう言っているとセレナの秘部にあてがい、マ○コからあふれだす愛液を塗布していく。ワレメにそうように、こすりつける。その度に得も言われる快感が襲う。

っ……………うぐっ……………ああ、あつ……………

それじゃあ挿入するよ。

ワレメに亀頭を押し当て狙いを定めていく。

ま、まて……………何をする……………なんだっ？

不安がるセレナをよそに男は位置を調整していく。






そして一気に腰を引き寄せ、
奥までつき入れた。

ひぐっ!! あ、ああああああああ!!

予想もしていなかった痛みが襲う
体は強張り、
痛みに耐えるよう歯を食いしばる。

ぐっ……すごい締め付けだよセレナちゃん。
ああ……油断するとイツちやいそうだ……
どうだい、僕のチ○コで処女を奪われた気分は？
セレナちゃんの初めての相手は僕だよ。

くっ……だまれ……うん……



痛みに耐えるが時期に引いてくる。
自らの中に異物が入っている
感覚がはつきりと
感じ取れるようになってきた。
ドクドクと脈打つのが肌で感じられる。
とても熱く中で溶けて
繋がってしまった感覚に陥る。

くっ……


ぬ……抜けっ……

いますぐ、その汚いものを抜け!!
不快だっ……。

え?なに?

もう動いていいのかな?

セレナの言葉を見無視し、
体をまさぐり始める。
媚薬を塗布された体は
触れられただけで反応してしまふ。



ひぐっ……ああああ♡
くっ……やめ、やめろ……
い、痛いだけだっ……んっ♡

今の僕はセレナちゃんと
つながってるから嘘ついても
無駄だよ。
体を撫でる度に、
マ○コが締め付けてきて
熱い愛液が溢れてきてるのが
わかるんだから。

それがどうしたっ……
抜けといってるんだ……!!

余裕がないのか息を
荒げ命令してくる。
男は愉しむかのように笑い
セレナの命令を聞き入れた。

それじゃあ抜いて上げようかな。

ゆっくりと


男のチ○コが引きぬかれていく。
結合部から汁が
溢れだし床へと落ちる。

男の力りがセレナの
膣壁をめくるように引っ掛けていく。
内蔵を引きぬかれて
しまうのかと思うほどの
感覚にとらわれ、身を震わせる。
同時に、想像もしていなかった、
快感が襲い掛かる。

あ、あああああああ♡
あっ、あっ♡

バ、バカっ……ぬ、ぬくなるっ……
おっ、おかしくなりゆっ……
で、でちやう……おっおっおっ

ギリギリまで引き抜くとそこで止める。



今度は抜かないで欲しいの？
わがままだな。じゃあまた入れてあげるよ。

今度は勢い良く奥につき入れた。結合部から汁が勢い良く飛び散り、挿入される。奥を突き上げられ、体が跳ねる。頭まで貫かれたかのような感覚にイッてしまったのだ。

ひゃっ、あっ、あああ♡
ぐうううっ!!


イツちやったの？
ああセレナちゃんかわいいなあ……
もう我慢できないよ。
僕も射精そうだから頑張ってね。

男は腰を慣らすように動かし、だんだんと小刻みに早くなっていく。パチム、パチムと腰がぶつかる度に水音混じりの音が部屋に響き渡る。

ひゃっ、あっ♥あああっ!!
ダメっ……はげしっ……激しいっ♥
こわれ……こわれちゃうっ♥♥
とめてっ……これ、気持ちいい……♥

すでに思考ができなくなり
本能に任せるように喘ぎ声が響き渡る。
男のチ○コがセレナの
膣で膨れ上がると、
一気に奥へと突き挿れ射精した!

ぐっ! 射精るっ!!
なかだし
膣射精し!!
初めての精子だ。
ちゃんと子宮に流し込んであげるよ!



熱い液体がセレナの
膣に勢い良く注がれる。

あ、あつ♥な、なにこれっ!!
なにを……したんだっ!


熱い♥いっぱいしてるっ……♥

おおおお、イツちやう……ひやうっ♥

初めての^{なかだし}膣射精しにイツてしまう。

射精する男のチ○コを
キツく締め上げ最後の一滴まで
絞り取ろうと離さない。

ぐっ、すごい締め付けだ……
射精しきるが男のチ○コは
衰えるどころか、硬さが増し
セレナの膣内で勃起していた。
精液をフタするかのよう
押し込まれ、そのまま体位を変えていった。



ああ……これでセレナちゃんの
顔がよく見える。

後ろからしゃイキ顔が見れないからね。

ま……またやるのか？

おっ……一回抜いて……くれ。
膣に熱いのが入って……

ダメだよ。ちゃんと
子宮に馴染ませないと。

いっぱい注ぎ込んであげるから。

僕は今日のために
精力剤注入してきたから

一日中SEXしても大丈夫なんだ。

たくさんなかだし膣射精してあげるからね。

奥を探るように亀頭で奥を圧迫する。

グリグリとうねるような動作に、

おかしくなるような快感が押し寄せる。

ひうっ、ぐっ……おとおお♡

睦……奥擦るの……だめっ……♡

ビクビクと体が反応し、跳ね上がる。
余裕のない表情を浮かべ、快感に
飲み込まれていく。

男に顔を見られていることなど忘れ、
口を大きく開け声を荒らげてしまう。
足は無意識に男の体を足で掴み固定する。
体は宙吊りになり

不安定な状態で、唯一男の
チ○コが支えとなっている。

ぐっ!!おああああああ♡
な、なにこれっ……ひっ、おおんんんっ♡

セレナの反応が顕著にかわり
亀頭が一点を攻めだしていく。

ここがいいんだね……
いまからイキ狂わせてあげるから。

ポルチオに亀頭があたり、
弱いとわかると執拗に責め始めた。

ひい、あっあああああああああ♡
腰………ひっ………飛んひやうっ!!

腰を動かし
狙いすましたように突き上げる。
突かれる度に体は宙に浮き跳ね上がる。
戻ってくる反動で
再び亀頭で突き上げられてしまう。

とぶっ………はっ、はっ!!
あああああ、イグッ♡イッぢやうっ♡
おかしっ………おかしっ………なんで、気持ちいいお♡

叫びにも似た喘ぎ声を上げ、イッてしまった。
すでに顔は惚けており、快楽に溺れてしまっている。

ひっ……なん、でっ……

イッたばっかなのたい♡

またイッちゃう♡♡おぉ♡

そこ、イクッ♡

体がっ、溶けひゃうっ♡♡

2度めの絶頂を迎えた。
だが止まらず
3度、4度連続してイッてしまう。

自慰すらまともにしたことがないのに、
媚薬を塗られチ○コを突き入れられているのだ。
さっきまで処女であったが、
処女の証の鮮血もあふれだす愛液に混ざり
わからなくなっていた。

くっ、セレナちゃん僕も射精るっ!!
一緒にイこうか!!
ほら我慢して、僕の精子でイクんだ。

腰が早くなり、力任せに腰を打ち付ける。
パンパンパンと水音混じりの
音が力強く響き渡る。

イクっ！射精すよ！
子宮に……直接吐き出すから！

あああああ♥また、でるのっ？

熱いの射精^での♥

あ、あれ……しゅきっ……♥

イッちやうから……射精^だしてっ♥早くっ♥

おもいつきり男のチ○コを締め付けていく。
2位度目の射精だというのに勢い良く膣に流し込まれる。
すでに子宮に入っている精子に混ざり子宮を押し広げていく。

おおおお♥

お腹、ぐるでいっ♥♥

なのにつ……気持ちいのお……

イッちやうっ♥

精子が吐出されている間、
断続的に痙攣し絶頂を迎えた。


満足したのかセレナの膣から
チ○コを抜き出す。
大きさは変わらないが、
硬さを失いだらんと垂れている。
セレナの膣腔から精液が勢い良く
吐出されていく。
力なく鎖に吊るされ、
絶頂の余韻に
小刻みに体を震わせてしまう。

ふう、少し休憩かな。
でもセレナちゃんは媚薬追加しとこうか。
従順にならないと拘束とけないからね。

そういうと、追加の媚薬を
うなだれるセレナに直接ぶちまけた。

ひゅっ♡

冷たい液体が火照った体にぶちまけられる。
そのまま放置され男は出て行った。



あれから何時間経ったのだろう……
一旦は理性を取り戻し、
自らがされた行為を思い出すと
怒りがこみ上げる。

だが、媚薬を再び全身にかけられ
放置されている。
体が熱く火照り、
子宮から蜜が溢れだし
足をつたいこぼれ落ちる。

体が疼き、さっきの男との
SEXが脳裏に蘇る。

無意識にチ○コを求めてしまうのだ。

1度味わってしまった

快楽に体はすっかり虜になってしまった……

どうしてしまったんだ……私の体は……

男が部屋に入ってくると、手の拘束を解除する。

体は床に崩れ落ち、男の前にうなだれる。

長時間の拘束と、媚薬の影響で立つこともままならない。

男のチ○コはすでに反り返り、
勃起していた。

もうそろそろ、僕のチ○コが
恋しくなってきたんじゃないかな？

ゴクリと唾を飲み込んでしまおう。
再び膣に挿入されることを考え、
下腹部から蜜が溢れ出すのを感じる。

くっ……、そんなわけ……

視線は男のチ○コに
釘付けになってしまおう。

そう？素直にならないと
また媚薬追加するけどいいの？

男はボトルを手に取り
セリナにかけようとする。
すでに体の疼きを抑えられず、
男がいなければ自ら弄ってしまいたいほどである。

まで、そ……それだけは……

じゃあ、それなりの誠意を
見せてもらおうかな。
僕に服従するように
お願いして見せてよ？

体から沸き上がる欲求に
抗うことができず、
壁に手をつき立ち上がる。
男に尻を突き出し、
水着をずらして自らの
秘所を開いて見せた。
膣腔からは汁がだらりと、
滴り落ちる。

こ、これでいいのか？
早く挿れたらどうだ！

なかなかいい格好じゃない。

焦らすように太ももをさすり、
尻肉にチ○コを擦りつけていく

ああああ……ちが……

はやくしたら……どうだ……

男に触れられただけで、
体は喜びに沸くように震え上がる。

ああ、どこに挿れて欲しいんだっけ？
僕はこのままでもいいんだけど。

セレナの体をまさぐり、
焦らすように触り続ける。

お、おとおとおお♡

っ……………んっ……………んっ……………

ま、マ○コに……………挿れてくれっ……………

もう、我慢っ……………できないっ!!

耐え切れずに、

男に尻を擦りつけ懇願する。

しょうがないな〜

亀頭が膣腔に充てがわれると、

ヌルリと吸い込まれるように入り込む。



おお、吸い付いてくるはくっ♡♡♡……

グチュグチュと音をたて、
熱くぬめった膣内でチ○コが
ビクつき始める。
キツく締め上げられ、
うねる膣壁にうめき声を上げてしまう。

ぐっ、キタ!! ああ、あっ♡♡
太いのが、あっ♡入ってる……♡

余裕が出てきたのか、
快楽を愉しむように
男のチ○コをくわえ込む。
自ら腰をくねらせ擦りつけていく。

どうした？

こここれが……気持ちいいのだから？

射精そりか？

また、膣に……射精すんだら♡



負けず嫌いのためか、
男を手玉にとるように
腰を動かしていく。

はっ、あああ♡
いいっ、気持ちいいっ……

早く射精^だしたら、どうだ？
私を、満足させて……みるっ♡♡

生意気なガキめっ!!
さっきまで処女だったくせにっ……

負けじと男が腰を
ぶつけるように動かしはじめた!
巨体がセレナを壁に
挟みこむように覆いかぶさっていく。

ぐっぐっぐっ!!

うねる膣壁をかき分けるようにチ○コが蹂躪していく。
あまりの気持ちよさに男は、腰が引け動きが鈍くなる。

で、射精そうだ……………っ！
セレナちゃんの膣なが……………
気持ちよすぎる……………。

そうかっ……………もう射精でするのか♡
あっ、あり……………♡
膣なに……………またらっばい、
射精だしてくれっ……………♡

動きが鈍った男にたいし、
自ら腰を動かし下腹部に
力をいれ絞り上げる。

ピクッピクッと自ら軽く絶頂し、
イキながらも男のチ○コを
しごき上げていく。

ひゃっ……………はやく、射精だしてっ♡
私は、イッピヤウ!? あっ♡
あっ、あっああああ♡

くっ、射精るっ………!!

セレナの膣に、
再び精液が注がれていく。
壁にへばりつくように
持たれかかり、
膣射精の余韻に浸っている。

で、でてりゅっ………おっ♡おっおっ♡

男は身震いし、
セレナのマ○コから
自らのチ○コ引き抜く。
セレナに主導権を
握られ果ててしまったのだ。
膣腔からは精液が
音をたて溢れだしていく。

ああ、あっ♡
精子、でちゃうっ………♡

卑猥な音をたて、精液が溢れ出す。
満たされていた膣内が空になっていく。
自分の意思とは関係なく、
物足りなさそうな表情を浮かべてしまった。

男はセレナを引き寄せ、
備え付けのベッドに押し倒す。

主導権を握られたことに、
不満のようでセレナに
覆いかぶさるようになる。
膣腔に亀頭をあてがうと、
体重を乗せて膣奥めがけて突き入れた。

ぐちちちちちち♡ぐっ、かはっ……♡



ぐふふっ、どうだいセレナちゃんは
僕のチ○コでよがってればいいんだよ。

息が出来ないほどの
衝撃が体を駆け巡る。
全身を潰されるのでは
ないかという勢いで、
男の体がのしかかってくる。

ひゃっ♥おとおおお♥♥
イツちやうっ……激しっ♥♥

男はセレナの口に指を突っ込み、固定する。
そのまま口をつけ舌をねじ込んでいく。

んぐっ♥んんんんっ……♡



セレナにとってのファーストキスを奪われた。

男は口に吸い付き、セレナの舌に自らの舌を絡ませていく。

唾液が混ざりグチュグチュと

頭の中に音が響き渡る。

頭の芯が痺れ、

快感で満たされていく。

おぐっ、チュルツ♡♡ズズツ……♡

自らも食べるように

男の舌に吸い付いて、舌を絡ませる。

口内を犯しながら、男は腰を動かしていく。

突き入れられる度に、

噴水の如く結合部から愛液が吹き上がる。



奥を突かれる度に、足が痙攣しビクビクと跳ね上がる。
ポルチオを突き抜かれ、全身が震え始めた。

喘ぎ声を上げようとしても、
男の口が塞いでるため
声が封じられる。
呼吸が出来ず、
酸素を求め吸い込むが
男の唾液が口に溜まって
うまく出来ない。
意識が朦朧とし、
懸命に意識を保とうとする。

いぐっ♡んむっ……
グチユ……チユ♡おおん♡

男の激しいピストンに
自目をむき体を震わせる。
ギンギンとベツトが悲鳴をあげ
男の巨体が跳ね上がる。



勢い良くチ○コが深々と膣奥に突き刺さると、
膣に精液を吐き出していく。

ビクビクツとふるえ、子宮を満たしていく。
焼けるような精液に絶頂を迎え、白目を剥きかけてしまう。

おおおおお♡ジュルッ、グチュグチュ♡
んぐっ、はぁ、んんんんっ♡

むさぼるように男の舌に吸い付き、絡められる。
キスによる快樂に心が満たされてしまっているのだ。

射精したにもかかわらず、男は尚も腰を振り続ける。
膣内で精液が愛液と混ざり、かき回されていく。
グボグボと音をたて結合部から、精液が噴出し始めた。

獣のように男は腰を打ち付けセレナを犯し続けた。

体位が変わり、セレナが男の上に乗る腰を動かしていた。
ギンギンとベッドのスプリングが揺れ、音を上げる。

男の反応を伺いながら探り探り腰を動かしていく。
前後にうねるよう、締め上げる。

どっどっだっ……♡

さっきのっ、おかえした♡

私が、お前を気持ちよく……してやる♡

自分が優位だと言わんばかりに、
男を見下ろし腰を振り続ける。
だが男が動きに合わせ
突き上げると、体を震わせイッてしまう。



おおお♡くぅ……♡
か、勝手に動くな……♡
いまは、私がっ……♡

懸命にイクのを我慢しながら、
腰を振り続ける。
男の腰の上で淫らに胸を震わせ
楽しませていく。

腰の動きが段々と早くなっている。

どうだ……？気持ちいいだろ？

また射精したらどうだ？っ♡

もう、私の膣に……

何回射精したかわからないなっ♡♡

なかだし
膣射精をすっかり気に入り、男を挑発する。
ギョウギョウとチ○コを締めあげ
精液を絞り出そうとしている。



そうだな、こんだけ膣射精し
なかだし
すれば妊娠しているかもね。
その時は僕がちゃんと
面倒見てあげるから。くっくっ……

に……妊娠……？

そうだよ。
セレナちゃんが僕の子を産むってことだ。

……………!!

快樂で惚けていた表情に焦りが浮かぶ。

ま、まて……ぐっ♡
なんで、子供がっ……あっ♡



なんでって？今やってるのは子作りだよ？

セレナちゃんの子宮に
僕の精液を流し込むと
子供ができるんだっ!!

そう言いと、思いっきり
セレナを子宮ごと突き上げた。
体はグツと反り返り、膣からグチュグチュと
蜜が溢れ出してくる。

ぐう♡っ……ああああああ♡
そ、そんなバカな……
じゃあ、私は、今まで……
お前の、子を産むために……

そうだよ。

今まで何回射精だされたか覚えてるかな？
セレナちゃん何度もおねだりしてきたからね。

男のチ○コを抜こうと立ち上がるようにするが、突き上げられ力が入らずへたり込んでしまう。手はがっちり男に掴まれ、逃げる事が出来ない。

は、離せっ!!

くっ……♡射精すなっ……

射精すんじゃないぞ♡

くっ……ああああ♡

うっ……もう射精そっだ……

セレナちゃんの膣が気持ちよすぎて……

ビクビクと膣でチ○コが脈打ち痙攣します。セレナを浮かす程の力で腰を突き上げ続ける。

バカっ……ぐっっ♡きもちいい♡
力がっ……膣は……はやく抜けっ……おとおっ♡

「ここらへんかな？セレナちゃんの子宮がある場所？」

指で確認するように下腹部を圧迫する。
男の指が押し当てられ、
膣壁がチ○コに強く擦りつけられる。

はっ♡はぁ、ああああああ、あっあっ♡♡

グニグニと指で子宮あたりを
押し込んでいく。
奥から熱い汁がトロトロと溢れ出るのが
止まらなくなる。

クリトリスを指でむき、
弾いたり押ししたりと責め立てる。



い、イツちやう♡

うっ……ああああああ♡

おっ！おっおっお♡

背を丸め立ち上がろうと力を込める。
腰を浮かすとタイミングよく突き上げられ、
ガクンと体が跳ね力なくへたり込んでしまう。

ほら早く立たないとなかだし膣射精しちやうよ。
そんなに僕の子供が欲しいのかな？

ひっ……ひっ♡
いやあ……♡

下半身に力を込める度にチ○コに
絡みつき動かすだけで腰が砕けるような
快感が襲ってくる。



ビュルッ、

膣^なでジワッと熱い感触がひろがっていく。

ひっ♡射精^だしたのかっ……？

や、やだっ……と、とめてっ……おっ♡

いぎっ♡ひび……あああ、膣^な……熱い……♡

な^なか^かだ^だ 膣射精^だしながら、
なじませるように下腹部を指で揉んでいく。

ほら、早く抜かないと
僕の赤ちゃんができちゃうよ。
まあ、もう手遅れかもしれないけどね……

ひび♡ぐっ♡

必死に抜こうとするが、
力がいらず、腰を浮かすことも出来ない。
男に下腹部を揉まれ気持ちよさでよがり狂ってしまう。

あああああ、っ♡

やめるお♡お願い……抜いてえ♡

涙混じりに、懇願を続ける。

男の腰の上で絶頂し

必死に抜こうとあがいている。

この後も、嫌がるセラナに
なかだし
膣射精しを繰り返し子宮を満たしていった。




ぐっぶ、ん、チュルツ……んっ、ズズツ……

私をデュエルで負かし、
ここに連れてきた男に
チ○コをしゃぶらされている。
デュエルで負け、
処女を奪われてからは
数日にわたり調教として
奉仕のしかたを教えこまれていた。

だいぶ上手くなってきたな。

男のチ○コは口に挿れてるだけでも大変で、
最初はロクに舌も動かさずじまい。
うまく出来なければ無理やり
喉奥にチ○コを突っ込まれ、
頭を固定され性器のように扱われてしまう。




丁寧に龟头周りを舐め上げていく。
裏筋から出るカウパーを舐め取り
歯を立てないように、
チ○コ全体を吸い上げていく。

ズズツ、ジュルツ……ジュボツ、ズツ……んんんっ……

そうだ、余裕があれば上目遣いで
見上げてみる。

男の言葉にしたがって、
目だけを動かし見上げる。
その間、舌は動かし続け愛撫を続け
唾液を含みながら、
グチユグチユと龟头を攻めたてる。

男は気持ちよさそうに顔を歪めると、
ゆっくりと頭を撫でていく。
うまくできれば、髪を優しく撫でられ褒められる。



最初のSEXと違い、
相手は私を実力で打ち負かした男……
そして媚薬も使わずに、
気遣いを見せつつも丁寧に私を扱ってくれる。

ふん、なかなか可愛いな。その調子だ……

っ……

男を見上げ可愛いと言われたことに
顔が熱くなってしまふ。
下腹部が疼き、自然と蜜が溢れだしてきた。

どうしてしまったんだ……
嫌々やってるはずなのに……
あの時は媚薬などというもののせいであ
理性を失ってしまったが今回は違う……

口に含む男のチ○コ匂いは強烈で頭の中を直接満たすかのようなのである。最初は吐き気がこみ上げたが、今はこの男のチ○コが愛おしくてたまらない……

喉奥まで亀頭を押し込むと、喉を使い絞り上げていく。舌で裏筋を執拗に攻め、男をイカせにかかる。

うっ……ああ、もうイキそうだ。口に射精すぞ。

男のチ○コが口の中でピクつき震え始めた。大量の唾液を含み口をすぼめ、必死に吸い付き頭ごと動かしていく。

ジュルルルッ……んっ♡、
んんんっ……クチュ、チュ……♡

口を開ける。

男に口を大きく開き中を見せた。
大量の精液が口の中に貯まっており、
吐き出すことも飲み込むことも許されていない。

吐き出さないようになったな。
どうだ？飲みたいか？

はあ、あ……んん。

男の質問に頷いてみせた。

よし、いい子だ。
飲み込め。

男の合図で口を閉じ飲み込んでいく。
男の精液が胃に流れ込み、
男の匂いで満たされていく。

ぐっ……はあはあ♡あああ、っ

飲み込み終わると、空っぽになった口を
再び男に見せつける。
さながら、飼い主に服従する犬のようである。

それじゃあ股を開け。

男の命令に、
スカートをたくし上げ股を開く。
直にスパッツを履いているため、
マ○コの形がくつきりと浮き出て
愛液でシミができていた。

チ○コをしゃぶっただけで
濡れるようになるとは
だいぶ淫乱になったじゃないか？

お、お前の……せいだ……

お前を気持ちよくしてやったんだ……
次は私を気持ちよくしろ……

恥ずかしさから顔を背けてしまう。

足ががっちり固定し
スパッツ越しにワレメに
香をはわしていく。
グニグニと周辺を圧迫し、
口で吸い付き始める。

んっ……はあ……

そこ……もっど、強く……♡

ジワツと唾液と混じり
ワレメから蜜が溢れてくる。
男の舌が上へと移動し、
クリトリス周辺を刺激する。

ひゃっ♡はあ……んぐっ……

そこ……焦らすな……♡

ク、クリトリス……気持ちいいんだ♡

ジンジンと痺れる様な
甘美な刺激に身を委ねていく。
ゆっくりと丁寧にクリトリスを
こねくり回し始める。

息が上がり腰が浮き始めた。
さらに刺激を求めるように
無意識に男の口に押し当てていく。

も、もつと……強く、吸ってくれ……
いつもみたいに……
乱暴でいいから♡
っ……んあっ……♡

口でクリトリスを覆うと、
強く吸い上げる。
舌で吸いだされた
クリトリスを責め立てる。

あああああっ♡
いっ……も、もつと……
イッちやうから……イキそう……♡

吸い上げる度にジュルジュルと
水音が響き渡る。

ふあっ……だ、だめっ……♡

腰が浮き上がり小刻みに震える。
イキそうになると、
男の口が離れ愛撫が終わってしまった。

はあ、はあ……な……なぜだ？
もう少しで……
イキそうだったのに……♡

不満げな表情で男を見つめ、
抗議の視線を送る。

イキたいならケツを出してみる。

男がそう命令すると、
迷わずに四つん這いになり
尻をつきだした。
完全に男を信用しきり
身を委ねている。

従順だな。

そろそろ闘技場のほうで
仕事をしてもらおうと打算するか……

闘技場……？

ま、また戦えばいいのか？

10連勝すれば……私は解放されるのか？

いや、処女ではないお前に

はあの時のような価値はない。

ショーで必要額稼ぐまでは働いてもらおう。

っ……またあの

ような男に犯されるのか……

そうだそのための調教だ。



お、お願いだ……

あんなやつらに犯されるのは嫌だ……

お前とならSEXでもなんでもする。

好きにすればいい……お前の言うことは何でも聞くから、

他の奴らの相手はしたくない……！

ふん、愛らしいことを言うな。

なら俺より先にイかなかったら考えてやる。

尻を撫で上げると、

スパッツに手をかけ破いてく。

グチヨグチヨになった秘部が晒される。

ムレていたため外気にふれ、

湯気が立ち昇る。

ワレメを指で開き

チ○コをこすりつけ、

愛液を絡めていく。

ふぁ……くっ♡

はぁ、はぁ……んっ♡



待ちきれないとばかりに
膣腔がパクパクとうごめき出す。

龟头をあてがうとヌルリと
膣壁を押し広げ入っていく。
数回程度の男とのSEXだが、
セレナのマ○コはチ○コの形を
覚えピッタリと吸い付き締め上げる。

ああ、入ってきた……♡

すでに興奮しており、
挿れただけでイキそうになってしまふ。
男との約束のため必死に我慢する。



いい締め付けだ。
さすがデユエリストと言ったところか。
私より先にイッたらわかってるな？

ゆっくりと腰を動かし始める。

ぐんぐんぐんぐん……♡

っ……んんん、ああああ♡

少し動かすだけで
イッてしまいそうになる。

対して男はフェエで
一回イッている為に余裕があった。

腰を曲げ体を震わす。

シーツを握りしめ必死に耐えようとする。

男はセレナの感じる場所を

知り尽くしており、

上に擦りつけるように

亀頭で肉ヒダを掻きだしていく。



引き抜かれる度に体は震え上がる。
奥を突かれれば気持ちよさで
頭がおかしくなりそうぞ、
耐えるように体を強張らせていく。

ひう、ああああ……♡

口からは涎がこぼれ、
余裕なく快感に必死に耐えていた。

奥まで突き入れると亀頭で
グリグリと奥を押し込んでいく。

ひゃっいや……だめっ、そ、それ♡
すぐ、いっちゃうからあ!!
おおおおお♡うんっ……ああ♡



奥を刺激され、体が跳ね上がると痙攣し小刻みに震えだす。
膣はヒクヒクと蠢き、チ○コを圧迫する。

どうやら先にイッたようだな。

む、無理……嫌だっ!!

あああ……あっ♡♡

腰を力強く打ち付けていく。
リズムカルにパンパンと
肉がぶつかる音が響きわたる。
腰が打ち付けられる度に
汗が飛び散り、糸を引く。

いぐつ……だめ♡す、好き……♡
好きなの♡



懸命にチ○コを締め上げ、
膣を蠢かせる。
闘技場で知らない男に
犯されることが決まった今、
タガが外れたように自ら腰を振り出した。

どこの誰か分からない男に犯され
子供を孕むくらいなら、
今この男に膣射精なかだししされ
子を孕ませようと必死に締め上げる。

いっつ♡うぐっ……射精でそうなんたる♡
膣……膣なかに射精だしてっ……♡
おねっ……お願い♡しゅきっ……なの♡

くっ……射精だすぞ!!



男の限界が近くなり腰を振る速度が早くなる。
ぐっ……と奥まで突き入れると
精液が吐出され子宮を満たしていく。

おおおおお♡でて……でてりゅっ♡

身を震わせながら男の精液を受け止めていく。
子宮がキュンと疼き恍惚の表情を浮かべる。

男がチ○コを引き抜くと、
膣腔から糸をひき精液がこぼれ落ちていく。
必死に防ごうと力を入れるが、
音をたてあふれだす。

その後セレナの必死の懇願により
食るようにSEXが行われた。

闘技場にて接待デュエルが行われていた。
一度に3人を相手取り戦うものだ。

すでに体中に媚薬が塗りたくられ、
デュエルがまともにも出来る状態ではない。

全身汗だくになり、衣装は生地が薄いため
媚薬を吸い透けて見えてしまう。
マンコにはバイブを突っ込まれ、
まともな思考ができないでいた。

ぐう……ああ、ああああ♥

いい格好じゃないか。

セレナを取り囲むように三人の中年が
デュエルディスクを構える。
すでに服越しに勃起し、
セレナの痴態をまじまじと観察して愉しんでいる。


体を震わせ快感に耐えようとする。
電流が弱いためなんとかイクことはまのがれた……
男たちに囲まれ罵られ、弄ばれる。

3人同時に相手なので
セレナのライフは3人分の12000。
執拗に繰り返される攻撃に耐え続ける他ないのだ。

さあ、セレナちゃんのターンだ。
どうしたカードを引かないのかね。

く……………ロー……………

どうにか力をふりしぼり、カードを引く。



モンスターを守備にしターンを終えるので精一杯であった。
どのみち相手モンスターを攻撃すれば
効果ダメージを受けてしまう。
相手のデッキはセレナをいたぶることを目的とした
デッキ構成なのだ。

ははっ、デュエルの腕はあまり良くないみたいなのかな。
あとでみっちり教えてあげないと。

モンスターや伏せカードを破壊され
丸裸にされてしまう。
さらに手札までも墓地へ送られ
反撃の手段も奪われてしまった。

再び相手のモンスターの攻撃が襲ってくる。
絶妙な攻撃力ゆえ、絶頂を我慢できるように調整されている。

そしてライフがギリギリまで削られていく。

残り500をきると男が高打点のモンスターを召喚した。
マジックカードで強化したドメをさしにくる。

装置が高出力で起動する。

電流に体は耐え切れず、

絶頂を迎えたらだらと膝から汗が溢れ出す。

パイプは音をたてて震え、汗をまき散らしていく。

弱いなくセレナちゃんは
あとでデュエルの特別授業をしないと。

だがまずは私達が楽しませてもらおうかな。

余興のデュエルが終わると、
デュエルディスクを取り外しセレナを取り囲んでいく。

ぼーっとする頭で男たちに命令される。
パイプを咥えたマンコを突き出し男たちの前で股を開く。

調教の成果か、命令に抵抗なくしたがってしまった。

あっ♡ま、負けて……しまったので♡
たっぷり……セレナをかわいがって、ください♡♡

男達に媚びるよう、教えこまれたセリフを喋る。



止まっていた、パイプに再びスイッチが灯り震えだす。

ひきSSSS♡

おっ！おっ！おっ！いい、イッた……ばっか……♡

睦……すっ……これ睦……グチャグチャになっひやり♡♡

男の一人が震えるパイプを抑えつけ、
睦奥にグリグリとねじ込んでいく。

あああああ♡あっ♡ぎもぢいひひひ♡

ほほお、説明通りマゾ女ですな。
まったくはしたない、お仕置きしないと。



手を離すと、膣が痙攣しバイブを押し出し出していく。
バイブは震えながらセレナの足元に落ちる。

長時間バイブをくわえ込んだマ○コは
ぱっくりと開いており、ヒクヒクと脈打ち蜜であふれていた。

それでは私が1番最初に
セレナちゃんのマ○コを味わいますかね。
お古ですしこんな開ききった
マ○コで大丈夫か不安ですが……



男の細長いチ○コがすんなりと
セレナのマ○コに挿入されていく

ほらしっかり締めあげてください。
金を払ってるんですから満足させてもらわないと。

あいた手で胸を鷲掴み揉み上げる。

ひぐっ♡おっぱい……ちゅちゅ♡
ちゅ、乳首敏感だからあ♡強く、しないで……♡

胸を乱暴に扱われたにも、一気に膣が締めあげられる。



ぐっ……すごいしめつけですね。
すぐにイッてしまいそうだ……

一心不乱に男は腰を振り始めた。

膣なに……射精だして上げますから!!

あまりのセレナのマ○コのの気持ちよさを
思わずイッてしまった。

おおおお♥膣な射精だしっ……♥♥
いやっ……赤ちゃんできちゃうっ……♥
ああああ……でも、好きっ♥
あがつっくっ……♥



膣射精しとともにセレナは絶頂を迎えてしまう。

男がチ○コを引き抜くと、
精液が糸を引きま○こからあふれだす。
ぐぽつと卑猥な音を響かせ絶頂と膣射精の余韻に浸る

ああ♡
いっぱい射精てる……♡
くっ……こんなに……

へっ、俺の番だな。
筋肉質のいかつい男が待ちきれないとばかりに現れた。

俺はすぐにはイカねえぜ。
俺が満足するまで止めねえから覚悟しとけよ。



再び精液がまだ残るセレナのマ○コにチ○コが突き入れられた。
イツたばかりの膣を容赦なく蹂躞していく。

い、いやあああ♥おっ、はげ、しいっつ♥。

荒々しいピストンにガクガクと体が揺れる。

男は息を荒げセレナをオモチャのように扱っていく。

い、いくっ♥おおお♥イツちやう!!

ブルツと体を震わせ絶頂を迎えるセレナ。

だが、関係ないかのように男は一心不乱に腰を振り続ける。



まっつて♡ああああああ♡

叫びにも似た喘ぎ声を叫びながら、男に必死に食らいつく。
意識が飛びかけるが、胸を力の限り握られ痛みで目が醒める。
膣がチ○コの摩擦で焼けるように熱くなる。

ひっ♡とめ、とめてっ!!

弱気な態度は男を興奮させるかのようで、
より一層激しくなっていた。



射精すぞ!!

ドクドクと凄まじい量の精液が流れ込む。

うんっ♡

一気に子宮が圧迫され、
苦しさと目が白目を剥きかけてしまう。

どうだ!

この目の為に貯めこんできたんだ。
これじゃあ妊娠しちまうかもな。

男の蔑むような笑い声に
泣きそうになりながらも体は快感で打ち震えていた。



数時間にわたり3人の男たちに、
かわるがわる休みなしに犯されていった。

体中に精液を浴び、朦朧とする意識をなんとか保つ。

体は疲れきり、小刻みに痙攣している。
媚薬のせいで今だに発情は止まらず、
心は満たされてはいなかった。

マ○コはぱっくりと開ききり、
精液が入りきらず溢れだしている。



大丈夫か？精液が溢れても構わない。
フタをしないとな。

落ちていたパイプを拾い、マ○コにねじ込んでいく。
力なくうなだれるセレナに鞭打つように、
スイッチを最大にする。

ひぐっ♡も、もう……ゆるしてっ♡ああああ……♡

マ○コにパイプを突っ込まれたまま
男たちは闘技場を出て行った。

地下闘技場で体力の続く限り、
犯され見世物にされる目々が続いていくのであった。